

2026年 2月 26日(木)

若手作家たちが紡ぎ出す「間」の美学、〈間を織る〉展開催

駐大阪韓国文化院の展示企画公募、第1回目の選定プログラム

- ◆ 創作集団「芸術感覚革新工場」の作家4名が、「チョガッポ（韓国のパッチワーク）」をモチーフに境界と繋がりを探求。
- ◆ 企画意図を紐解くアーティスト・トークや、韓紙（ハンジ）チョガッポ照明作りワークショップも同時開催。

大阪韓国文化院（院長 キム・ヘス、大阪市北区東天満 1-1-15）は、2月27日（金）から3月28日（土）まで、本院1階のミリネギャラリーにて〈間を織る〉展を開催します。

今回の展示は、韓国文化院が今年初めて試みる「ミリネギャラリー展示企画公募」を通じて選定された企画であり、若手作家たちで構成された創作集団「芸術感覚革新工場」によるプロジェクト展です。昨年末に行われた企画公募は、初の公募であったにもかかわらず、韓日両国の作家グループやキュレーターから計49件もの応募がありました。審査に参加した韓国国立現代美術館のリュ・ハンスン学芸研究官は、「時代やジャンルを超え、両国の若い世代の共通の話題を扱った興味深い提案が多かった」と評価しています。

今回の展示のテーマは、韓国伝統のパッチワークである「チョガッポ」です。互いに異なる断片が集まり一つの美学を完成させるチョガッポのように、本展は、人と人生、過去と現在、記憶の間の不完全な結合と重なりを探求します。参加作家たちは韓国、フランス、日本を拠点に活動する文化的な多様性を持っており、その意味をより深めています。

チョン・ヘイン作家は、新作「粒子と波動（2026）」を通じ、光の吸収と反射を利用した「光の彫刻」を披露し、存在の不完全な結合に対する哲学的な問いを投げかけます。チェ・ウンヨン作家は、日本の伝統的な陶磁器修復技法

である「金継ぎ」を取り入れた「解体と再編に関する研究（2025）」により、損傷や亀裂を、新たな繋がりと復元の可能性へと置き換えます。

リュ・ジヨン作家は、「Urban Collage（2023）」を通じて都市の断片的なシーンを感覚的に配置し、個体と存在の間の最適な調和と密度を探求する過程を見せます。アリアネ・メルシエ・ポー（Ariane Mercier-Beau）作家は、シルクのチョガッポの上に内面の言葉を刺繍で刻み込む連作を通じ、ためらいと告白が積み重なった感情の表面を象徴化します。

初日の2月27日には作家4名が参加する「開幕式とアーティスト・トーク」を進行し、28日には観覧客が直接チョガッポの原理を体験できる「韓紙チョガッポ照明作り」ワークショップを開催する予定です。

キム・ヘス韓国文化院長は、「近年日本国内では、韓国美術に対する関心が非常に高まっています。横浜美術館では過去80年間の韓日現代美術交流に関する展示が開かれており、日本の代表的な美術雑誌である『美術手帖』も今年1月号で韓国現代美術特集を組みました。このような関心の中で、本展示が韓国の現代美術シーンで活躍している若手作家を紹介するもう一つの契機になることを期待しています」とし、「今後も公募プログラムを定例化し、実力のある企画者やアーティストが現地に紹介され、積極的に交流が行われるよう、全面的に支援していく予定です」と明らかにしました。

- 添付 1 展覧会ポスター
2 参加作家及び主な作品

駐大阪大韓民國総領事館 韓国文化院			
〒530-0044 大阪市北区東天満 1-1-15 HP : https://k-culture.jp			
担当	大阪韓国文化院 ノ・スンヒョン	TEL	06-6585-0585
		FAX	06-6585-0985
		E-mail	shnoh@k-culture.jp

添付 1 展覧会ポスター

2026 大阪韓国文化院 ミリネギャラリー 企画公募 選定展

2026年2月27日 | 3月28日

정해인
チョン・ヘイン
Hae-In Jeong

최은영
チェ・フニョン
Eunyoung Choi

류지영
リュ・ジヨン
Reu Jiyong

아리안 멕시에-보
アリアネ・メルシエ-ボー
Ariane Mercier-Beau

問
を
織
る

사이의
|
직조

企画
예술감각혁신공장 **As if**
As if : Artistic Sense Innovation Factory

主催・主管
駐大阪韓国文化院
Korean Cultural Center Osaka

添付 2 参加作家及び主な作品

芸術感覚革新工場

アートクルー「As If : Artistic Sense Innovation Factory (芸術感覚革新工場)」は、主要メンバーであるチョン・ヘイン、チェ・ウニョンと、プロジェクトごとに招かれる客員メンバーで構成されたアーティストグループです。2023年にパリでの初展示をきっかけに結成された本グループは、次の2つのビジョンを掲げています。

- 1 既存の枠組みを打ち破り、芸術が代替的な実験の場となり得る新しい創作活動を探求する。
- 2 芸術的創作と学問的探究の境界を崩し、芸術がもたらす新たな感覚的体験を見出す。

単なる造形的・審美的な表現にとどまらず、芸術と心理学、哲学、物理学、天文学などの純粋学問を横断する「インターディシプリナリー（学際的）な結合」をテーマにプロジェクトを展開しています。これを通じて、より拡張的で深遠な芸術体験を提供する方法について模索し続けています。

したがって、「革新工場」という名称は、科学的かつ論理的な感覚体験に基づき、創造的で革新的なアートを生産する「空間の具現」と「観念的な場所」を同時に象徴しています。



.... チョン・ヘイン



粒子と波動

映像、サイズ可変、2026

この作品は、「私が見ていないとき、世界は存在しているのか？」という根本的な問いから始まる。「見る」という行為が世界を受動的に受け入れるのではなく、むしろ世界を初めて存在させる能動的な「生成」のプロセスである可能性を探求している。

作品は、光を吸収する表面と、その上を遊泳しながら光を反射する一つのオブジェで構成される。核心は、吸収された光によって見えない映像が、この動くオブジェが通り過ぎる刹那の軌跡の上でのみ「光の断片（彫刻）」として現れるという点にある。そして、これらの断片は感覚とともに編まれ、観客の思考の中で観念的に完成され、一つとなる。



.... チェ・ウニョン



解体と再結合に関する研究

ガラスブロックに金継ぎ、サイズ可変、2025

作家は長年、断片の形象の中に潜む人間の記憶と感情のレイヤーを追求してきた。作家にとって「亀裂」とは、単なる損傷ではなく、新たな繋がり可能性を秘めた「隙間」である。

今回の出品作も、こうした制作アイデアから出発している。ガラスを砕き、再び繋ぎ合わせる過程は、傷の回復とともに記憶を再構成する行為でもある。割れた破片が完全には噛み合わないその隙間に、作家は個人の経験と過去、そして現在が交差する瞬間を見出す。その隙間は欠如ではなく、関係性が生まれる場なのだ。

本作において亀裂は、異なる世界を繋ぐ媒介となる。絵画に見られる金の線は、癒やしの象徴であり、亀裂が生んだ存在の痕跡である。これは、断片化された感情と記憶を集め、異なる時間と認識が共存する一つの「場」を創り出す行為の結果といえる。結局、作家の「繋ぐ」という営みは、記憶、認識、そして存在の間を関係を復元する行為なのだ。目には見えないが、確かに存在するその繋がりの中で、私たちは再びお互いを認識するのである。



....リュ・ジョン



Urban Collage

インクジェットプリント、写真インスタレーション、サイズ可変、2023

本作は、都市の全景が展示台のサイズに合わせて広く敷かれ、その上に都市の断片的なシーンが小さな写真として部分的に添えられる形で構成される。しかし、これは単なる組み合わせではなく、「出所の異なる選択の集合体」としての世界を表現している。

それぞれの個体に対する理解に基づき、最善の調和と密度を見出すプロセスであり、無秩序の中で新たな秩序を生成しようとする、感覚的な探求の結晶である。



.... アリアネ・メルシエ・ボー Ariane Mercier-Beau



<The Grass is soft> series

シルクのチョガッポ（絹のパッチワーク）に刺繍、Various sizes、2025

この作品において「縫う」という行為は、単に布と布を繋ぎ合わせることを超え、散らばった記憶を再び編み上げ、断絶された時間や関係を復元する象徴的な装置である。作家は自らの内面にある言葉を、シルクの布の上に刺繍として刻み込む。その布は、異なる断片がパッチワークされることで、告白と躊躇が幾重にも積み重なった感情の表面となる。これは、真実の言葉を物質へと変容させるプロセスである。作家が繋ぎ合わせているのは布ではなく、他者との誠実な関係、そして感情の痕跡そのものなのだ。